

産婦人科医半年 —習得したいこと、伝えたいこと【産科編】

10月になりました。本年度も半年が過ぎました。

産婦人科医になって半年の皆さん、しっかり学んでいますか。最初は慣れていないから……とこなすだけの日々を送っていないでしょうか。自分が十分学んでいるか、他施設ではどのような指導を受けているのか、気になりだしてはいませんか。これからは基本的なことほど、すでに知っていてあたりまえと指導医は思い、教えてくれなくなります。もしかしたら、すでに聞きたくても聞けないことはないでしょうか。わかっているふり、惰性の医療は危険です。なんとなく研修を終わらせ、疑問をおざなりにする医師にはなって欲しくありません。まして、自分はおいていかれたと諦めるのは早すぎます。学びはいつからでも始めることができます。あと半年たつと、学年があがり後輩がはいってきます。自信をもって働き、教える先輩になってください。

指導をしている先生方、お疲れ様です。自分ですれば早くて確実なことを、時間をかけ患者様に不利益を与えないよう安全を担保し若手に経験を積ませるのは、大変だと思います。お忙しいなか、指導内容が十分か、また上手な指導法がないか知りたいと思ったことはありませんか。また根拠は大丈夫でしょうか。今日、教える側も学ぶ側も忙しくなっています。自分が経験した苦労をそのまま経験させる指導になっていないでしょうか。通らねばならない苦労もありますが、苦労を繰り返すのみでは進歩は限られます。教えるのは最大の学びです。いまいちど指導について振り返ってみませんか。

本号は、入局したての新人だけでなく、指導者も基本的な事項を振り返り共有する場です。特に初学者は、学問の深さだけでなく学びの姿勢も含め、足りないところを自覚しそれを補う方略を見出し、新たな出発の端緒となるものになりたいと思います。もう半年たってしまった、やっと半年たつと後ろ向きに思うのであれば、残りの半年で取り返す、やるぞ、もう半年という気概でいきましょう。本号はそんな皆さんと伴走するものになります。

(杏林大学医学部産科婦人科学教室 谷垣伸治)